

# 平成26年度 学校自己評価表（実施段階）

那珂川町立 福岡女子商業高等学校

学校運営計画（4月）				評価（総合）		
学校運営方針		[教育目標] 人格の完成を目指し、徳育・知育・体育の調和のとれた人間性豊かな生徒を育成する。 地域や社会に貢献しようとする「志」と「実践力」を持つ人間を育成する。				
昨年度の成果と課題		年度重点目標		具体的目標		
1 学校運営方針の下、職員のきめ細やかな指導により、生徒の多くは生き生きとした学校生活を送っているが、一部の生徒に学習意欲や規範意識の低下がみられる。今後、生徒に自律し、自立する力を付けていく必要がある。		(1) 確かな学力の育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>魅力ある授業、分かる授業を展開し、学力の向上を図る。</li> <li>学習規律や授業規律を確立し、基礎学力と専門的力量を充実させ、学習意欲の向上を図る。</li> <li>家庭学習習慣を定着させる。</li> <li>成績不振による進路変更を防止する。</li> </ul>			A
2 就職、進学等の進路実績は着実に伸び、成果を上げることができた。 就職は、就職内定率100%を維持するなど、実績を上げることができた。 今後、さらに実績を伸ばすため、確かなる学力の育成やキャリア教育の充実を図っていく。特に、「進学・高資格コース」の生徒の進路実現に向け、取り組みを充実させる。		(2) 基本的な生活習慣の確立	<ul style="list-style-type: none"> <li>時間を守る、あいさつの励行、清掃・整理整頓の徹底など、規律ある生活態度やマナーを身に付けさせる。</li> <li>遅刻や早退、欠席者数を減らす。</li> </ul>			
3 女子商マルシェやボランティア活動、小中学校への学習支援等を通して、地域との連携を深め、地域の学校としての使命感や存在価値を高めることができた。今後、さらに連携を深めていくとともに、愛校心や学校への帰属意識の育成を図る。		(3) 豊かな人格の形成	<ul style="list-style-type: none"> <li>部活動の活性化や学校行事、生徒会活動の充実を図り、豊かな心を育み、規範意識を高める。</li> <li>生徒に自律し、自立する力を育成する。</li> <li>部活動加入を推進する。[加入率70%以上を目指す。]</li> </ul>			
4 積極的な広報活動を行うなど、本校への志願者数を増やすための取り組みを行ってきたが、増加に反映されず、志願倍率が低下した。今後、志願者数が減少した分析をしっかりと行い、志願倍率の回復に努めていく。 また、本校の特色の周知に努めるとともに、マルシェ等の教育活動を通して、本校の魅力を積極的に広報する。		(4) キャリア教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>三年間の全教育活動を通して、適正な勤労観、職業観を育成するとともに、進路意識の高揚を図る。また、連結教育（継続学習）としての進学指導を充実する。</li> <li>[就職内定率100%を維持する。]</li> </ul>			
		(5) 本校関係団体や地域との連携協力の強化	<ul style="list-style-type: none"> <li>P T A、同窓会、後援会等との連携や地域との交流を通して、本校への理解を深めるとともに、地域の活性化に貢献する。</li> </ul>			
		(6) 人権・同和教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>全教育活動における人権・同和教育の推進を図り、諸研究会へ積極的に参加する。</li> </ul>			
		(7) 職員研修の充実と教育力の向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>職員研修を計画的に推進し、授業力の向上や教職員としての資質向上を図る。</li> </ul>			
評価項目	具体的目標	具体的方策		評価（3月）		次年度の主な課題
総務部	校務分掌間や職員間をつなぐ機能を果たし、スムーズな校務運営を実現する。	職員が見通しを立てながら業務に取り組めるように、行事計画を早めにまとめ、職員会議や職員朝礼にて連絡する。		B	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>●学校案内の早い時期の完成を目指す。</li> <li>●学校開放の日程について教務部と連携しながら、保護者が参加しやすい日程を模索する。</li> <li>●ホームページや広報誌を活用し本校の取り組みを保護者に今以上に知っていただく機会を増やす。</li> </ul>
		職員へ配布された資料を、必要な時に閲覧できるようにファイリングする。		B		
		行事ごとに、今後必要となるデータを保存管理する。		A		
	関係諸団体との連携を強化しながら、関係諸団体と本校の活性化を図る。	P T Aの各委員会活動を支援し、保護者の本校教育活動への理解を深め、行事や活動への参加を促しながら、連携して生徒を育てるムードを高める。 翠香会（同窓会）に対して本校教育活動の成果を報告し、卒業生にも紹介いただきながら、在校生を多方面から支援いただく。		A	A	
		女子商会（後援会）より支援いただいている事項を整理し、今後必要な支援策について検討・協議する。		B		
		Webページの更新をなるべく早く行うために、各校務部の担当者と連携する。		A		
効果的な広報活動を行う。	学校案内を前年度から作成始めるなど、今年度の早い時期から広報活動に生かせるように工夫する。		B	A		
	中学生とその保護者に対する広報活動を教務部と連携して強化する。		A			
研修部	職員に必要な校内研修を企画し実行する。また職員の研修としての研究授業や教育実習を行い、授業力向上を図る。	昨年度実施した校内研修に関するアンケートに基づき、希望の研修を考慮した上で、校内研修を企画し実施する。		A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>●校内研修の内容については、単年度だけでなく通年の計画を立て、教科指導力向上のための研修も含め、多種多様な研修を効率よく設定することを目指す。</li> <li>●人権・同和教育推進委員会のあり方については、内容・組織の両面について、研修部との関係も含めて見直し、本校における人権・同和教育の一層の充実を図る。</li> <li>●外部研修に関する情報発信をより充実させ、より多くの研修参加を促す。</li> </ul>
		他校（那珂川町内の幼稚園・小・中学校も含む）の校内研修に関する情報を提供し参加を促す。		A		
		研究授業を実施したり、参観することで全職員の授業力の向上を図り教育実習の指導・参観をすることで各自の授業の充実を目指す。また、実習生に事前指導・研修を行うことで、研修の充実を図る。		A		
	人権・同和教育を組織的・体系的に行い教職員としての資質向上を図る。	各学期の人権・同和教育授業の充実を図るため、担任会や学年会で作成された内容を人権・同和教育推進委員会で検討、改善を行い、より良い授業が出来るように支援する。		A	A	
		那珂川町の主催する那同研・学同研関連の行事、講演会・学習会に積極的に参加し資質の向上を図る。人権フェスタ・児童館こどもまつりには職員・生徒にボランティアの参加を呼びかける。		A		
		「あおぞら」や「かがやき」などの視聴覚教材等の利用を促す。		B		
校外研修に積極的な参加を促す。	県教育委員会・教育センター主催の研修への積極的な参加を促す。		B	B		
	研修誌「翠陵」の内容を充実させ、職員研修・各報告を掲載し記録として残す。		B			

# 平成26年度 学校自己評価表（実施段階）

那珂川町立 福岡女子商業高等学校

教務部	教科指導の充実をはかり、基礎学力を定着させる。	授業評価アンケートや授業参観週間、研修部主催の研究授業等を活用して教員の教科指導力の向上をはかる。	B	B	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>●教科指導の充実や基礎学力の定着については、教師や生徒によって捉え方にばらつきが生まれていたため、統一の目標を定め、各先生方が指導に取り組めるような方策を教務部として研究、提案する必要がある。</li> <li>●分掌との連携と情報共有は目標としていたが、それは、具体的方策の一つであり、連携と情報共有を行うことで何を実現するかを具体目標と定める。</li> <li>●学校法人化の動向を整理し、在校生の取り組みが評価され、本校を志望する中学生に対してその不安を軽減できるような適切な情報提供が重要だと考える。</li> </ul>
		各教科からの毎時間15分程度の宿題により、家庭学習の充実をはかる。	B			
		考査前1週間の放課後学習を学年と協力して実施する。	A			
	各部との連携をはかり、情報を共有化する。	学年主任会や研修会等で生徒情報を共有し、共通理解をはかる。	B	A		
		成績に関する説明会等において、成績不振者に対する指導を学年と協力して行う。	A			
		毎月の出欠状況や再試験後の成績に関するデータを各部に提供し、情報を共有する。	A			
	生徒募集に関する情報発信や広報活動の充実をはかる。	中学校訪問等により、今年度の志願者数減少の原因分析を行い、必要な対策を検討、実施する。	B	A		
		中学校への出前授業や中学生の高校訪問等の機会を積極的に活用し、充実をはかる。	A			
		体験入学、保護者対象学校説明会の内容を充実させる。	A			
進路指導部	キャリア教育の推進	学年に応じた進路講演・ガイダンスを実施し、適切な進路決定の一助とする。	B	B	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>●安易な考えでの専門学校進学者を減らし、就職や大学・短大への進学を勧める。そのための動機づけを学年に応じて実施する。具体的には、学年集会やガイダンスの実施、進路だよりの発行（3年生の進路体験を多く掲載など）、卒業生講話などを考えている。</li> <li>●入試形態の複雑化に対応するため、教職員の情報交換や研修が必要である。また、課外授業の精査（必要・不必要な科目、時期など）を教務部や他の部署等と検討する。</li> <li>●早期離職を防止するための職業観・勤労観の育成を図る。また、職員による企業開拓の機会を増やし、その体験を生徒に還元する。</li> </ul>
		進路相談・面接指導について全職員の連携を図る。就職進学の希望にかかわらず、進路決定に至る助言と社会人としての心構えを伝える機会とする。	B			
		本校保護者・生徒向けの進路情報誌の発行、外部への情報発信としてホームページの更新を定期的実施する。	B			
	課外と模試の充実	外部模試や諸調査の結果が生徒へ還元されるよう、担任や教科担当者に適切な助言を行う。	B	B		
		資格取得と基礎学力の定着及び多彩な進学希望に応じた、課外授業を実施する。	B			
	就職・進学サポート体制の強化	学年部と連携し、生徒情報の共有を図る。	B	A		
		就職指導及び職業安定所と連携し、積極的な職場開拓を実施する。	A			
		三者面談（本人・保護者・担任）をサポートし、職業観・就労意識の向上と、有意な進学先選択の助言を行う。	B			
		3年生による進路体験発表を実施し、1・2年生の進路意識の高揚を図る。	A			
生徒指導部	規範意識を高揚させ、規律ある生活態度を身につけさせる。	時間や生徒心得・風紀規程など、約束を守る意識の高揚を図り、当たり前のことを、当たり前に行えるようにさせる。	B	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>●注意されなくてもできる指導に取り組む（集会の集合状態、風紀面、自転車通学面など）</li> <li>●行事・生徒会活動・部活動において生徒の力をより引き出す指導に取り組む</li> <li>●生徒指導の具体的方法を共通理解する。</li> </ul>
		式典・集会等において、集団として・集団の一員としての必要な言動を身につけさせる。	A			
		規範意識の育成を図り、薬物乱用予防講習会・性犯罪防止講習会・携帯電話等安全利用講習会等を実施する。	A			
	交通安全教育を行い、交通社会人としての意識を養う。	自転車通学免許制において、安全利用の学科・実技の講習会を行い、自分自身の安全と、相手の安全を守らせる。	A	A		
		ミニバイク安全利用講習会・自動車免許取得講習会を適時行う。自転車点検・ミニバイク点検を定期的に行い、安全走行の意識の高揚を図る。	A			
		地域の方に迷惑をかけない登下校ができるよう、講話や指導を適時行い、相手を思いやる心を育成する。	B			
	学校行事や部活動を通し、生徒の力を引き出す。	生徒会執行部を中核に、学校の活性化のためにあらゆる取り組みを行う。また、学校行事において全生徒の生き生きとした活動を促し、リーダーシップとフォロアーシップを育成する。	A	A		
		学校活性化のため、部活動加入を推進し、加入率70%以上を目指す。さまざまな指導や体験を通し、生徒のより豊かな人間性を育む。	B			
		さまざまな機会であ校心を育ませ、共感できる場を多く引き出し、好ましい人間関係の形成等に資する。	A			
保健環境部	生徒・教職員の健康を保持増進し心身ともに健康な国民の育成を図るとい教育目的の育成に寄与する。	健康観察を有効に実施し、多様化・深刻化する生徒達の心身の今日的な健康課題に適切に対応できるようにする。継続的な健康相談を実施する。	B	B	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>●継続的な健康相談はSCをはじめ先生方の協力により実施できたが、適宜生徒たちの心身の今日的課題に対応していくことは困難であった。</li> <li>●継続的に医療を受けながら学校生活を送る生徒たちの対応については、各学期毎の報告等で確認することが必要と思われる。</li> <li>●インフルエンザ等の感染症について啓発を行うものの発生の減少は難しく今後も繰り返し取り組んでいく必要がある。</li> </ul>
		主任会などを有効に活用し、養護教諭を中心に関係職員等と連携した組織的な保健指導を行う。	A			
		生活習慣の乱れやいじめ・不登校・児童虐待などのメンタルヘルスに関する課題に取り組む。心身の異常を自覚して自発的に観察・相談を必要とする生徒に健康相談を実施する。	B			
	生徒の健康状態を現状からより良い健康状態に高めていくことへの働き掛けをする。	アレルギー疾患（アナフィラキシー含）その他継続的な医療を受けながら学校生活を送る生徒の把握と対応について確認する。	A	A		
		薬物乱用・性感染症・飲酒・喫煙・妊娠・食事・運動と休養などの思春期における危険因子への啓発を行う。	B			
	学校保健と学校全体の活動との調整。学校保健計画の作成と実施。学校保健に関する組織活動の推進。	インフルエンザ・新型インフルエンザ・ノロウイルスによる感染性胃腸炎・結核などの感染症に関する啓発を行う。	A	B		
		本校の生徒達にどのような健康課題が起こりつつあるのかということをとらえて優先される健康課題を組織として判断することができるように働きかける。	B			
		日常的な健康観察による生徒等の健康状態の把握から健康上の問題をできる限り早期に確認する。学校衛生管理上必要なことを実施する。	B			
	救急処置について、問題が発生した場合に負傷者の生命の安全を考え速やかに対応することができるように計画し実施する。	A				

# 平成26年度 学校自己評価表（実施段階）

那珂川町立 福岡女子商業高等学校

第1学年部	基本的生活習慣の確立に向けての支援を行う。	家庭との連携を重視し、欠席・遅刻・早退を可能な限りさせない環境を構築する。	B	B	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>●家庭学習の習慣をつけさせるためにも、教務部との連携を図り、各教科から家庭学習用の課題を出していただくなどの対策を講じる。</li> <li>●LHRなどを活用し、上級生や卒業生の取り組みの紹介、指導員の先生方からの情報提供など、進路実現に関しての具体的な意識付けを早期から行う。</li> <li>●生徒を取り巻く環境の変化（家庭環境、交友関係、部活動の入退部など）には特に気を配り、情報の供給と関係部署や職員間での連携を図る。</li> </ul>
		風紀指導、交通指導を継続的にを行い、安全かつ落ち着いた生活環境を整える。	A			
		部活動への積極的な参加を促し、日々の生活に充実感を持たせる。	B			
	進路実現に必要な能力及び技術の習得への支援を行う	基礎学力の向上に向けて、家庭学習の習慣を定着させる。	B	B		
		学習計画を立てさせ、考査や検定に臨ませる。また、その結果について自己分析の習慣をつけさせる。	B			
		進路についての情報提供を継続的に行うことで、早期から進路実現に向けた計画を立てさせる。	B			
	集団の一員としての自覚や責任感を持たせる。	学校行事においては、個人やクラスの目標とは別に、学年としての役割も自覚させるとともに、事後には次年度に向けた課題を確認させる。	A	B		
		学校が公共施設であることを意識させ、清掃活動や整理整頓を常に促す。	B			
		ボランティア活動や地域行事への参加を通して、地域へも貢献できる人材を育成する	B			
第2学年部	生徒指導の充実を図る	中堅学年としての自覚を促し、礼法活動の実践と明るい挨拶、機敏な行動、場をわきまえた対応を指導する。	A	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>●服装・頭髪に関する教職員の共通理解と指導の徹底、家庭との連絡を密にとる。</li> <li>●主体的な学習習慣を確立させるため、授業・課外授業への出席皆勤を目指させ、家庭学習の習慣づけを図る指導を行う。</li> <li>●進路の実現につながる早期の情報収集とそれに基づいた個別指導を行う。</li> </ul>
		面談・電話連絡・家庭訪問等により家庭との連絡を密にし、欠席・遅刻や頭髪・服装等、問題点の改善に向けて早期に適切な指導を行う。	B			
		修学旅行の実施目的を深く考えさせ、集団行動を通して個々の役割の自覚や責任感の育成に努めるとともに、他者を思いやる心を持たせる。	A			
	学習指導の充実を図る	コース制の意義を理解させ、自主的・主体的に学習に取り組ませる	B	B		
		基礎学力を徹底させるため、自宅学習を充実させ、毎日学習する習慣を身につけさせる。また、考査前には学習会を計画する。	A			
		課外等に積極的に参加し、また資格取得を促し各種検定を積極的に受験させ、学力・集中力の向上に努め、進路実現に必要な学力を養う。	B			
	進路指導の充実を図る	部活動・学校行事・学級行事を通じて幅広い教養を身につけさせ、かつ共通の意識を持つことで女子商生としての自覚と品位を持たせる。	A	A		
		進路意識の高揚のため、個別指導を行い、情報収集等早めに取り組みせ、進路指導部との連携による適切な進路情報の提供に努める。	B			
		二者面談・三者面談等で進路目標を明確にさせ、オープンキャンパスや説明会、講習会等への積極的な参加を促す	A			
第3学年部	生徒の可能性や能力を大きく伸ばせる進路実現に向けて、きめ細やかな指導に取り組む。	進路指導部との連携を密にし、進路に関する情報提供や各種講習会・セミナー・研修等への積極参加を促す。	A	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>●学力が自己の成長や進路決定に大きく関わることを理解させるための動機づけと、そのための先生方とのより一層の連携・協力が必要である。</li> <li>●商業高校生として、また、社会人・職業人としてのプライドを持たせて挨拶や皆勤につなげる。</li> <li>●各行事で得たリーダーシップや成功体験を、日常生活や学力に反映させる。</li> </ul>
		個々の進路実現に応じた学習指導、面接指導を継続的に実施する。	A			
		授業外学習（家庭学習・放課後の自学自習等）を促し、生きる力としての学力向上と学習習慣の確立を目指す。	B			
	社会人・職業人として通用する心構えや能力の育成に取り組む。	自ら心を開く挨拶の励行に取り組み、人間関係向上につなげる。	B	B		
		時間の重要性を意識させ、自己管理・健康管理につなげ、安易に欠席・遅刻・早退させないようにする。（皆勤率70%以上を目指す）	B			
		大人としての風紀や規範意識、立ち振る舞いを意識させ、内側から輝ける指導に取り組む。	B			
	最終学年として、学校や地域に貢献できる人材育成に取り組む。	一人ひとりに3年生としてリーダーシップを発揮させ、各行事を成功に導く。	A	A		
		本校の顔として女子商マルシェやボランティア活動など、地域参加型の活動に積極的に取り組める意識づけ・動機づけを行う。	A			